

遠藤原子力委員長代理の海外出張報告について

平成 15 年 7 月 29 日
内閣府原子力担当

1. 目 的

フランス共和国サクレ（パリ郊外）で開催される米国ローレンス・リバモア国立研究所主催の Atoms for Peace after 50 years 会合に出席し、将来の原子力政策に関して各国と意見交換を行う。また、原子力関係要人と、原子力事情や原子力政策に関して会談を行う。

2. 出張者及び日程

（１）出張者：遠藤 原子力委員長代理

（２）日 程：7月20日（日）～26日（土）

7/20（日）	日本発	パリ着
21（月）	フランス原子力庁会談	
22（火）	Atoms for Peace after 50 years 会合出席	
23（水）	Atoms for Peace after 50 years 会合出席	
24（木）	Atoms for Peace after 50 years 会合出席	
25（金）	OECD / NEA 会談	パリ発
26（土）	日本着	

3. 結果概要

（１）原子力関係要人との会談

a. フランス原子力庁ブシャール局長等との会談

遠藤委員長代理から、プルサーマル計画、六ヶ所再処理工場の建設状況など我が国の核燃料サイクルの近況や電力事情などに関して説明した。また、ロシアの解体核処分に関して、従来のペレット燃料と共に我が国振動充填法による MOX 燃料を用いた処分も重要との認識を伝え、先方と意見交換を行った。

ブシャール局長からは、フランスでのエネルギーに関する国民的議論に関して、原子力を含めたエネルギー全般について有意義な議論がフランス各地で展開された旨の説明があった。

b . O E C D / N E A エチャバリ事務局長との会談

O E C D / N E A のエチャバリ事務局長と会談し、「もんじゅ」の国際的な役割や今後期待される国際協力に関してなど意見交換を行った。

エチャバリ事務局長からは、「もんじゅ」に関して O E C D / N E A としても、国際協力の観点からできることをやりたいと考えている旨の話があった。

(2) Atoms for Peace after 50 years 会合

1953 年の米アイゼンハワー大統領による Atoms for Peace 演説 50 周年にちなみ米国ローレンス・リバモア国立研究所の主催で開催された。

核不拡散など原子力の平和利用を主たるテーマとしており、この 50 年での原子力の平和利用に関する総括と、将来の平和利用のあり方などが議論されている。米国、日本、欧州（仏）にてサブ・テーマを決めて会合を開いており、今回は 3 回目となる欧州（仏）での開催である。

今回のサブ・テーマは横断的事項となっており、政府の役割や核物質の管理などに関して議論され、我が国のこれまでの経験や今後の方向性などについて発言し意見交換を行った。

以 上